

概要報告

実施期日	8月1日(金)
部会名	中学校 技術・家庭(家庭分野)部会

テーマ 『 生活を見通しより良い生活を想像し社会の変化に対応する能力や実践的な態度を育てる学習指導と評価の工夫・改善 』

～実践的・体験的な題材や学習活動から学んだ知識の活用・探究を目指した授業づくり～

提案概要

- 生徒の実態等を踏まえ、相互に有機的な関連を図り、系統的・総合的な学習の展開に配慮した題材設定の工夫
 - ・1つの題材から得られることが多くなるような工夫
 - ・4つに分かれている内容を相互に関連させ、学年ごとに積み上げていく工夫
- 実践的・体験的な学習活動、問題解決的な学習、言語活動の充実をめざした学習指導の工夫
 - ・各題材での実践的・体験的な活動の可能性
 - ・短時間で完成でき、生徒が「達成感・充実感」を得られる実習題材の工夫
- 3年間を見通した指導計画、評価計画の作成と学習指導の工夫
 - ・実習題材の検討や実習の評価のポイントの精選

質疑概要

- ・1時間の実習に際した前後の授業の工夫は？
 - ⇒・事前に食材の知識を勉強しておき、直前の授業で作り方を書かせ、記憶に残るよう工夫している。
 - ・振り返りは次の授業までにプリントに記入するよう宿題にしておき、時間の短縮を工夫している。
 - ・同じ授業の形態を繰り返し行うことで生徒も余裕を持って取り組めるように工夫している。
- ・アクリルたわしは何時間で製作するのか、また、その後使用することはあるのか。
 - ⇒・1時間目で指編みをさせ、2時間目で成形させる。不要という生徒の分のみ学校で使用している。
- ・アクリルたわしの渡し方や生徒の指導法の工夫は？
また、調理実習の評価などはどのように工夫しているのか？
 - ⇒・一人一玉渡して対応し、自己責任でしっかり管理するよう伝えている。
 - ・調理実習の評価は身支度をきちんとするかどうか、などという当日の見取りとプリントの記入内容で評価するようにしている。調理のみで評価することなく、不得意な生徒にも挽回のチャンスがあるように工夫している。

研究協議概要

- ・4人～5人のグループに分かれて情報交換を兼ねた協議を行い、報告した。

協議の柱

- 短期間で完成できる実習題材
 - りんごジャム、鰯料理(つみれ汁・蒲焼き)、サツマイモ料理
- 内容(題材)を重ねて学ぶことができる実習題材
 - 衣服のリメイク、環境についてを他の題材でも取り入れる、調理実習で洗剤の使用で環境や材料の準備で食品表示など、消費生活を各題材に絡めて教える。
- 実習するときの準備の工夫
 - ボランティアなど外部団体と連携し準備軽減、道具を学校で全て用意、被服の作業工程を絵や写真で表示、教室の動線をスッキリさせる、調理実習の材料を小分けで配達してくれる業者に依頼する、視覚表示をすることで準備片付けを含め作業がスムーズになり、時間短縮につながる。

まとめ概要

私の勤務校では家庭科教諭が時間講師であるが、指導内容は変わらないので実習の準備や教材研究に本当に苦勞している。各校、家庭科教員は各学校一人のところが多いからこそ、今回の研究会でできた他校の先生方とのつながりを大切に、工夫して行ってほしい。

家庭科の授業は今まではいかにうまく作れるかといった点に重点が置かれていたが、今は学んだ技術をどのように生かすか、という視点に移っている。モノ作りから消費生活にシフトしている社会の中にいるということを意識してほしい。その中で生徒はどのようにそのものが作られているのか、よいものは何か、という目を養うことが大切である。だからこそ、今回の提案内容にあった、スパイラルという方法は目標に近づくために必要なものであると感じた。

年齢構成がどの教科も二山になっているが、今回はその間で文化の伝承がなされてよかった。

今回の提案題材は『私たちの消費生活と環境』ではあったが、全体にどのようにリンクしているのか、どのように工夫してスキルアップさせるかという方法はすべての内容に反映させることのできるものであった。そのことは指導要領解説6ページの(2)内容にも触れられている。今回の内容構成と改善は別の題材を扱ったときにも他とのつながりを意識させることでより意義のあるものになる。その中で技術や知識の定着や向上を目指すためには構成や順序の工夫がとても大切になる。

今回の提案内容の具体例にあったジュースの実習では、生徒たちが実習をしながら率直な感想を述べ合う姿が見られた。そのことで生徒たちは自分の意見に自信を深めたり、視野を広げたりすることができていた。プリントに記入されている内容だけでなく、そういった面でも言語活動が取り入れられ、生徒の力になっていることが実証された。このように生徒が自分の感想や考えを話すことができる環境を作るには、生徒自身が今、何について学んでいるのかをしっかりと把握していることが必要となり、限られた授業の時間では私たちがそのポイントを絞って伝えることがより大切になってくる。これらを考えると準備の重要性が増すが、今回の研究会で得られた様々な学校で行われている工夫をぜひ生かしてほしい。その中でも、授業をある程度同じパターンで行うことは準備や方法の説明にかかる時間を短縮するうえで有効だと感じた。

これからも生徒が自分の生活と絡めて、さらに時代の変化に対応できる教材の研究を協力して進めていきましょう。